

定例教育委員会【議事録】

日 時 令和6年1月10日(水)
15時00分～

場 所 岡谷市役所6階 605会議室
署名委員 小平教育委員 轟教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン後期5か年計画(案)について【資料No.1】
(教育総務課)
2. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン ハード整備版(案)について【資料No.2】
(教育総務課)
3. 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画(案)について【資料No.3】
(生涯学習課)

○ 報 告

1. 年度末・新年度の行事について【資料No.4】
(教育総務課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、
教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、
教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
図書館主幹 増沢 洋子、川岸学園設立準備室川岸学園設立準備主幹 新村 尚志、
教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和6年1月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は小平教育委員 轟教育委員にお願いいたします。

○教育長報告

宮坂教育長： はじめに私から報告をいたします。

二十四節季の小寒から大寒に向かっていますが、小寒に入った途端に氷点下になりました。本日も雪模様です。

我が家にはもみじがあります。非常に強い木で、剪定をしないとやぶになってしまいます。例年3月に剪定をしていましたが、本を読んでみると、もみじの剪定の時期は遅くも12月と書いてありました。水吸いの良い木なので、切った枝から水が滴り落ちるくらい水を吸っています。剪定した小枝も花芽が出ていたので捨てるのが勿体なく感じて、花瓶にさしています。

子どもたちの姿から報告します。先日、3学期の始業式が行われました。ありがたいことに、休み中に大きなけがや事故などの報告はありませんでした。テレビでは長地小学校の始業式の様子が放送されました。校長先生から地震に関するお話や、6年生が自身の夢について語る様子が放映されました。また、各校から不登校ぎみの児童生徒が何人も登校したとのご報告をいただきました。各校で良いスタートが切ることができました。

理科の自由研究で、長地小学校4年生の八並伸之介さんの「野蚕を死なせずに糸を取る方法を考える」が県知事賞と文部科学大臣賞を受賞しました。12月には教育長室で八並さんとお話しする機会がありました。5年にわたる研究について発表をしてくれました。自分で仮説を立てて、実証をしていました。通常はお蚕様の命をいただいて、糸を取っているのですが、可哀そうに感じた八並さんは何とか死なせずに糸を取れないか研究を始めたようです。お母さんと一緒に、現場主義を徹底した研究で様々な山を駆け巡って、標本となる蛾を捕まえたようです。また、自分で分からないところは、岡谷蚕糸博物館等の専門機関にも質問をしたようです。本当に岡谷ならではの自由研究だと思います。

続きまして生涯学習課から、令和6年「二十歳を祝う会」について、報告させていただきます。

生涯学習課では、1月7日に、カノラホールにおいて、「二十歳を祝う会」を開催いたしました。新型コロナの位置付けが感染症法上の「5類」に移行されてから初めての式典ということもあり、昨年度を上回る多くの若者が集まり、色とりどりの着物により、大変華やかな式典となりました。ま

宮坂教育長：

た、今回は保護者の方にもご来場いただき、お子さんの成長をご覧いただきながら、二十歳の皆さんの新たな門出を一緒に祝うことができました。

教育委員の皆さんにもご協力いただき誠にありがとうございました。特に、藤森委員さん、林委員さんにおかれましては、重責を担っていただきました。二十歳を迎える若者の胸に響く、大変晴れやかな内容であったように思います。

今回の式典開催にあたり配布しました記念品は、地球環境の保護等にも関心を寄せてもらおうと、昨年に引き続き保温ボトルを贈りました。また、毎年好評をいただいている、恩師からのお祝いメッセージや学生時代の懐かしい映像の放映も行い、「ふるさと回帰」「就労支援」に結び付くよう、工夫を凝らした取り組みを実施いたしました。今回の取り組みが実を結ぶことを願っております。

今後におきましても、多くの若者が集まる式典となるよう、また、ふるさと岡谷に帰って来たい、住み続けたいと思ってもらえるような事業にまいりたいと思っております。

最後にスポーツ振興課関係では、「第45回岡谷市民元旦マラソン」について報告をさせていただきます。新年の幕開けを告げる恒例の元旦マラソンに、子どもから高齢者まで約200人が、走り初めを楽しみました。昨年まで、コロナ禍の影響により、参加者ごと順次スタートしていましたが、今年は4年ぶりに開会式を行ったあと、市長の号砲で一斉スタートいたしました。

諏訪湖沿いを走る二つのコースを、新年の風を感じながら、それぞれのペースで駆け抜け、ゴール後には完走証が手渡されました。1年の始まりに笑顔で元気にマラソンができることは大変素晴らしく、参加された皆様は、新年の良いスタートが切れたのではないかと感じているところであります。

私からの報告は以上であります。

それでは議題1「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン後期5か年計画（案）について」を事務局よりお願いします。

○議 題

1. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン後期5か年計画（案）について

<資料1に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。それでは後期5か年計画（案）について、3つに分けて質疑応答を進めたいと思います。最初は第1章から第4章。ページで言いますと、1ページから6ページの内容につきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

（教育委員から質問等無し）

続きまして第5章、7ページから11ページにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

轟教育委員： 11ページの施策3「幼保小中併設による新たな学び舎の創出」に「義務教育学校の設立をめざす」とありますが、これはすべての学校の義務教育化をめざすということでしょうか。それとも川岸学園構想が該当しているのでしょうか。

事務局（両角）： 昨年度末に川岸学園構想を制定しました。少子化等を踏まえたうえで、今後の学校の有り方を考えた時に、小学校1年生から中学校3年生まで、切れ目なく教育を提供するタイプの学校が義務教育学校です。

川岸小学校と岡谷西部中学校は敷地が隣接しています。市内にはこのような学校は他にありません。施設の老朽化対策に加え、川岸小学校と岡谷西部中学校の義務教育学校の移行を図ることを目的としております。小中で一貫した教育の実施は重要と考えておりますが、川岸小学校と岡谷西部中学校以外は、土地が隣接していませんので、川岸学園と同じような構想で義務教育学校化を進めることは難しいです。まずは川岸学園での取り組みを通じて、より良い学校のあり方を検討したいと思っております。

そのため市内全校を義務教育学校にするということではなく、できることから段階的に進めたいと思っております。

藤森教育委員： 8ページの「施策2 地域と共に歩む、開かれた学校づくり」につきまして、岡谷版のコミュニティスクールは、県と国の中間的な立ち位置でよろしいのでしょうか。

また、「ものづくりのまち岡谷の精神を受け継ぎ」とありますが、岡谷版コミュニティスクールは地域の企業も参画することを目的としているのでしょうか。確かに岡谷のものづくりは大きな産業ですが、製造業に限らず幅広く様々な産業でキャリア教育を進めてもらう必要もあるのではないかと感じています。

事務局（両角）： まず岡谷版コミュニティスクールにつきましては信州型コミュニティスクールに準じています。信州型は従来に地域にある土台、つまりは学校に関わっていただいている地域の皆さんも連合組織にすることを目的としています。岡谷でも、通学路の見守り隊の方や放課後居場所づくりの方

事務局（両角）： などの地域の皆さんで会議を実施しています。ただし、それよりも歴史のある制度で、学校評議員制度があります。こちら地域の方から学校の運営についてご意見をいただく制度であります。そのため、学校に関わる地域の受け皿が2つある状態です。国型では、それらを1つにまとめて学校運営協議会とし、シンプルにすることを目的としています。なお学校運営協議会では、学校運営に関わる意見ができるという権限を与える形になっています。制度の創設当初では人事に関することにも意見ができ、内容のハードルが高かったため、あまり推進されなかったという課題がありました。なお先行している県内の市町村ではその市町村に適した形で国型コミュニティ・スクールを推進している事例もあります。岡谷市としてもより良い制度へ変更したい思いがあります。複雑化している組織をよりシンプルにし、今までは信州型がメインでしたが、国型の要素も取り入れて、岡谷版コミュニティスクールを作りたいと思っております。

キャリア教育につきまして、様々な職種がありますが、岡谷は製糸業からものづくりのまちになった歴史がありますので、それらの精神を受け継ぐことを記載しております。岡谷東部中学校では東中メッセも始まっています。地元の様々な職種の方々が参加して下さり、生徒が仕事について学び、将来の職業について考えるキャリア教育に生かしております。

藤森教育委員： 我々の先輩方から受け継がれてきた精神があり、今の岡谷の産業があります。職業紹介に留まらず精神の部分をキャリア教育に含んでいただきたいです。

宮坂教育長： 今後、東中メッセは少し規模を大きくして実施する予定ですので、楽しみにしていただければと思います。

他にご意見ありますでしょうか。

林教育委員： 8ページの「施策3 人と学びをつなぐ教育環境の充実」に「長期休業」という言葉があります。夏休みや冬休みを指す言葉だと思いましたが、あまり見慣れません。よく使われる表現なのでしょうか。

事務局（両角）： 一般的には夏休みや冬休みということが多いですが、長期休業が正式な言葉です。学校が休みということで、長期休業という言葉が使われています。

林教育委員： 読み込めば、学校の夏休み冬休みを指していることは分かりますが、パブリックコメント等でこの言葉を見た時に違和感を持つ方もいると思います。

事務局（両角）： 分かりやすく補足を入れます。学校の長期休業、もしくは夏休みという表現になると思います。

- 太田教育長職務代理者：** 11ページの施設の長寿命化計画につきまして、能登半島地震でも学校が避難所になるケースがありました。岡谷市でも災害時は学校が避難場所になることが想定されます。防災対策の内容を本計画に含めた方が良いのではないのでしょうか。
- 事務局（両角）：** 災害時の対応については、岡谷市地域防災計画にしっかりと位置付けられています。それに基づき、災害時のマニュアルには避難所開設等で学校は含まれています。子どもたちに対しては防災訓練をはじめとした防災教育の視点が大切と捉えております。
- これからの防災対策につきましては28ページの「細施策 No.512 学校防災対策の促進」に避難所としての視点や、市の防災対策の表記があります。
- 小平教育委員：** この5か年計画は岡谷市のホームページで見ることができるようになるのでしょうか。
- 事務局（両角）：** 現在の計画もそうですが、岡谷市教育委員会のホームページで公表しています。今回の後期5か年計画も同じように公表する予定です。
- 小平教育委員：** 用語解説も付けていただいたので分かりやすい内容になったと思います。川岸学園構想につきまして、図説はあるのでしょうか。過去に定例教育委員会で出てきた資料が分かりやすいものでした。
- 事務局（両角）：** 昨年公表した川岸学園構想は、まだ骨組みでしたので、現在は肉付けをしている段階です。段階的に図説等も含めて公表をしていく予定です。
- 宮坂教育長：** ありがとうございます。それでは続きまして、第6章、12ページから31ページにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。
- 太田教育長職務代理者：** 13ページの細施策「No.111 学力向上の推進」と「No.112 教職員の資質向上と良質な授業づくり」がありますが、両方が密接に結びつく内容になっています。1つの細施策にしてしまっても良いのではないかと思ったのですが、2つに分けた意図を教えてください。
- 事務局（両角）：** 対象者が誰なのかで分かれています。No.111は子どもたちの学力向上、No.112は先生たちの資質向上がテーマになっています。
- 小平教育委員：** 1人1台端末につきまして、先生と生徒の双方から情報発信ができると思います。子どもから何か困ったことがあった時もSOSの発信ができるようになると思いますが、それらも本計画に含まれているのでしょうか。
- 事務局（両角）：** 1人1台端末が当たり前の環境になっています。通信ができますので、授業以外にも、困った時にSOSを発信するための媒体として使うために国も動いています。この計画の期間中には、多様な使い方ができるようになると思います。GIGAスクール構想以外にも、いじめ防止対策の推進や子どもの支援にも関わるところになります。そのため、具体的な内容につつま

事務局（両角）： しては書ききれない部分がございます。ただし、今後広い分野でICT機器を活用する流れになることは間違いないです。

藤森教育委員： 20ページの「細施策233 親支援と家庭教育力の向上」につきまして、なかよしプログラムを具体的な施策として含めていただき、非常にありがたく思っています。なかよしプログラムは、教育委員が自主的に進めてきたものが、教育委員会の施策に含めていただいたという認識です。教育委員や地域関係者の協力により実践する旨の表記がありますが、教育委員も教育委員会の一員なので、あえて教育委員を表記しなくても良いのではないのでしょうか。

事務局（両角）： 教育委員の皆さんの思いや願いがあり、始まった事業だと承知しています。自発的に実施をしてくださっていたので、今までは教育委員会の立ち位置も明確化できずにいました。また、親御さんの支援が欠かせないということは教育委員会も把握していますので、今までの流れを継続発展したいという意味で、あえて教育委員という表記を入れました。

藤森教育委員： もちろん教育委員にも責任があり、今後も協力して進めていくことは重々承知していますが、もっと多くの関係者の皆さんを巻き込んだ形で進めたいとも思っています。教育委員が始めた活動を、このように計画に含めていただけて、とてもありがたいことだと思っています。

林教育委員： 14ページ「細施策 No.121 国際理解教育の推進」につきまして、「コミュニケーションに苦手さのある児童生徒に対しては」という表記がありますが、苦手さという言葉はあまり聞かない表現だと思います。

事務局（両角）： 他にも言い方はありますが、より柔らかい表現を使いたかったため、苦手さという言葉を使っています。

太田教育長職務代理者： 同じ細施策の中に、「国際交流センターによる通訳支援事業等によるサポート」がありますが、現状はどの程度対応できる体制なのか教えてください。

事務局（両角）： 英語はもちろん、中国語やポルトガル語などを含め、多様な言語の対応ができる体制になっています。

太田教育長職務代理者： 25ページ「細施策 中学部活動の活性化」につきまして、「地域のスポーツ団体等と連携して」という言葉があります。スポーツだけではなく、文化系も含めた内容にさせていただくこともご検討いただきたいです。

宮坂教育長： ありがとうございました。

議題2「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン ハード整備版(案)について」は本プラン7章 別冊となっておりますので、このまま進めさせ

宮坂教育長： させていただきます。事務局より説明をお願いします。

2. 岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン ハード整備版（案）について

＜資料2に基づき、事務局より説明＞

宮坂教育長： それでは協議に入らせていただきます。
まずは 1 学校施設の長寿命化対策の背景・目的 から 3 学校施設の現況
まで、1ページから7ページにつきまして、質問や意見がありましたら願
いします。

（教育委員から質問等無し）

続きまして 4 学校施設整備の基本的な考え方 から 5 学校施設のめざ
す姿、7ページから10ページにつきまして、質問や意見がありましたら願
いします。

太田教育長職務代理者： 10ページに「学校施設のめざす姿」がありますが、その中にゼロカー
ボンに関わる表記があります。実際に民間企業でも何ができるか難しく感じ
ている問題です。具体的に何を想定されているのでしょうか。

事務局（両角）： 具体的に何をすれば良いか検討してみると、非常に限られていて難しい
問題だと思います。例えば化石燃料の削減を目的として、暖房の使用を禁
止することはできません。検討しているのは施設改修に合わせて照明を蛍
光灯からLEDに変更をして二酸化炭素の排出量を減らすことを考えてい
ます。他にも、学校の屋根に太陽光発電パネルを設置し発電をして、理科
の学習でも活用することを考えています。

轟教育委員： 1人1台端末につきまして、他県の話ですが机が小さいことが課題に挙が
っていました。端末と資料集を置いたら机いっぱいになってしまうよう
です。大きい机を購入することは大きなコストがかかると思いますが、ア
タッチメント式の機材もあるようです。

岡谷市でもそのような実例があるのか、何か対策をされているのか教え
てください。

事務局（両角）： 岡谷市では10インチのタブレットを導入していますが、他市町村では12
インチのタブレットを導入している学校が多いです。岡谷市でも導入時点
で使い勝手について協議した経過があります。他の市町村より小さいタブ
レットとはいえ、机の上が狭くなっている実態はありますので、今後は機
材の更新期に、ニーズを把握し導入を検討する必要があると思っております。

- 宮坂教育長：**　　続きまして 6 学校施設整備の基本的な方針 から 8 計画の継続的な運用方針、11ページから15ページにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。
- 藤森教育委員：**　　12ページにも川岸学園構想に関わる内容がありますが、義務教育学校が完成した時に、名前が川岸学園になると思っている方が多くいます。パブリックコメント等を含めて今後検討していく部分になると思います。例えば川岸学園（仮称）というような公表の仕方にする等、何か対策はありますでしょうか。
- 事務局（両角）：**　　正式な名称設定はまだしていません。名称は議会で議決し、条例で定める部分になります。校舎整備を進めると、いずれ名称を決めるタイミングが来ます。現在は川岸地区にある学校なので、川岸学園と呼んでいます。昨年度、川岸学園構想ができた時は、この名称で進めようという話になっていますが、様々なご意見があると思いますので、正式名称については次のステップで検討する内容だと思っております。
- 藤森教育委員：**　　名称について、今後の流れがどこかで分かるようにしていただければありがたいです。ご検討をお願いします。
- 小平教育委員：**　　プールのことでお伺いします。現在、岡谷北部中学校のプールは使用せず、市民プールを利用しているとのことでした。例えば岡谷西部中学校のプールを使用することはあるのでしょうか。
- 事務局（両角）：**　　岡谷西部中学校は、県道拡幅に伴い、プールを補償工事しました。そのため他の学校より新しいプールになっています。プールが使用できなくなった時には、多額の費用をかけて修繕をするのか、岡谷北部中学校のように、代替のプールを活用するのか判断をする必要があります。その時に、例えば市民プールに行くよりも、岡谷西部中の方が近い学校なら、岡谷西部中学校のプールを併用して利用することもあると思います。
- 藤森教育委員：**　　パブリックコメントにつきまして、周知はホームページのみでしょうか。学校等にも設置いただけるのでしょうか。
- 事務局（両角）：**　　3支所、カルチャーセンター、市の公開コーナーにて紙ベースでもご意見をいただけるようにします。学校につきましては、策定後にPTA連合会で説明をしたいと思います。
- 宮坂教育長：**　　ご意見ありがとうございます。各委員さんからいただいたご意見を計画の内容に反映し、パブリックコメントを行い、プラン案として公表してまいりたいと思います。次回の教育委員会では、パブリックコメントでいただいたご意見を踏まえ、教育委員会として、本プランの承認をいただきたいと思いますと思っております。

宮坂教育長： それでは議題1、2につきましては以上とさせていただきます。
続いて議題3に進みます。

議題3「第4次岡谷市子ども読書活動推進計画（案）について」も、議題1、2と同様に、事務局から説明後、協議の時間を設けさせていただきたいと思っております。それでは事務局より説明をお願いします。

3. 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画（案）について

<資料3に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： それでは、計画概要から第1章、1ページから4ページにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

藤森教育委員： 先日二十歳を祝う会もありましたが、民法上の成人年齢が18歳になっております。本計画の対象者が0歳から概ね18歳の子ども、となっておりますが若干の違和感があります。

事務局（伊藤）： 概ね18歳とすることで、高校3年生までを表現しております。岡谷市の計画を策定するにあたり、他市町村の計画も見たところ、多くの市町村が、0歳から概ね18歳の子どものという表記をしていました。

小平教育委員： 巻頭のあいさつ文に「成長期において切れ目なく読書活動を推進することが重要」とあります。4ページには「発達段階に応じた取組」とあり、非常に大切なことだと思います。どの年代でも読書で得られるものは大きいです。デジタル化も進んでいますので、とても良い謳い方だと思いました。

宮坂教育長： 続きまして第2章、5ページから18ページにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

林委員： 貸し出し目標指数につきまして、デジタル図書を借りた場合はカウントされるのでしょうか。

事務局（増沢）： デジタル図書につきまして、岡谷市独自ではなく長野県内の全市町村と県が共同で運営をしているデジとしょ信州があります。利用状況を各市町村で取り込んで把握することができるようになります。

林委員： 現時点でデジとしょ信州はどの程度利用があるのでしょうか。

事務局（増沢）： 紙の本を借りられる方が多く、令和4年度は8月から3月利用分で1,500冊程度の貸し出しがありました。デジタル図書は一度に2冊までしか借りることができません。紙の本なら10冊まで借りることが可能なので、なかなか伸び悩んでいる所があります。

轟教育委員： デジとしょ信州は、読める冊数はどの程度あるのでしょうか。

事務局(増沢)： 25,000冊あります。ただし岡谷図書館には、自由に手に取れる本だけでも11万冊ありますので、ここは今後の課題だと思います。ただし、図書館や本屋に行くことが難しい方にとっては、現時点でも便利なツールだと思います。

小平教育委員： 13ページにタブレット端末による電子図書の体験導入に関する表記がありますが、こちらはまだ検討段階でしょうか。

事務局(増沢)： 学校の読書の時間に、デジとしょ信州を利用して読書ができるように進めている学校もあれば、学校での読書時間は、紙の本を読んで欲しいと思っている先生もいます。学校と相談をしながら進めていきたいと思っています。

宮坂教育長： 続きまして第3章から第4章、19ページから21ページにつきまして、質問や意見がありましたらお願いします。

(教育委員から質問等無し)

本計画は、本との出会いで得た感動や楽しさと知る喜びを体験しながら、何事にも主体的に取り組む姿勢や自己肯定感を身につけ、たくましく成長することを目標としております。教育委員の皆さん、パブリックコメントにより頂いたご意見を踏まえ、次回定例教育委員会において計画の承認をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

本日の議題は以上となります。続いて、報告事項に入ります。報告事項1「年度末・新年度の行事について」、事務局より説明をお願いします。

○報告事項

1. 年度末・新年度の行事について

<資料4に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。
次に「その他」につきまして、事務局よりお願いします。

○その他

・行事等について(各課)

<各課より行事予定について説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。
その他連絡事項等ありますでしょうか。
今までのところで何かご意見等はございますか。

宮坂教育長： 本日本定しました議題は以上ですが、全体を通して何か質問等ございますか。

教育委員さんから何か報告事項等ございますか。

それでは事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は
2月8日（水）9時30分から 岡谷市役所6階 605会議室を予定しています。

よろしくお願いいたします。

宮坂教育長： ありがとうございました。
以上をもちまして、本日の会議を終了とさせていただきます。

17時00分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和6年2月8日

教 育 長 宮 坂 享

署 名 委 員 轟 美 緒

署 名 委 員 小 平 陽 子

調 製 職 員 白 上 淳